

対ギニア共和国 事業展開計画

2024年 4月 現在

基本方針 (大目標)	持続的な経済社会開発のための基盤整備
---------------	--------------------

重点分野 1 (中目標)	食料安全保障											
開発課題 1-1 (小目標) 持続的農業・農村開発及び食料安全保障の実現	【現状と課題】 ギニアは豊かな自然資源と降水量に恵まれており、西アフリカにて唯一、食料輸出の潜在能力があるとも言われている。同国暫定政権は中期目標である「暫定参考プログラム (PRI) 2022-2025」の中で、農業を強靱で持続的な成長のための牽引役と位置づけ、その開発を重視している。しかし就労人口の6割以上が農業に従事しているにもかかわらず、生産性の低さや流通面の課題から、GDPに占める割合は1割に留まっている (PRI)。また、同国は国土の西側に約350kmの海岸線を持ち、西アフリカ最大の大陸棚があることから豊富な海洋資源に恵まれているが、近年、資源状況の悪化及び内陸部等への水産物の流通が課題となっている。同国の経済成長及び食料の安定供給のため、第一次産業の振興が急務である。					【開発課題への対応方針】 我が国は水産行政アドバイザーの派遣や農業の開発調査等を通じ、これまで主に首都コナクリにおける農水産物の生産性向上に貢献してきた。今後も、ギニアの高い開発潜在力を顕在化させ、第一次産業の生産性を向上させるため、農水産物の生産基盤や流通体制の整備及び行政の改善等を支援する。また、同国の主食であり、我が国が知見を有する稲作に重点を置き、国産米の生産・販売促進等を通じ稲作開発を支援する。						
	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
				2023 年度 以前	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度			
		経済社会開発計画	無償	■■■■■						2.00	2,14	水産分野資機材
		海岸ギニアにおける国産米の生産・販売促進プロジェクト	技プロ	■■■■■						4.80	2	
		セネガル川流域コメバリューチェーン強化プロジェクト(セネガル)	技プロ	■■■■■							8,12,14	広域
		水産バリューチェーン改善による広域ブルーエコノミー開発促進プロジェクト (セネガル)	技プロ	■■■■■							1,8,10,12,13,14	広域
		食糧援助 (WFP連携)	食糧援助	■■■■■						3.00	2	
		森林保全に配慮した高品質カカオの普及・実証・ビジネス化事業	普及・実証・ビジネス化事業	■■■■■							1,8,9,12,13,15	
		カカオの苗木生産・販売一貫モデルにかかるニーズ確認調査	ニーズ確認調査	■■■■■							1,8,9,12,13,15	
	農業、水産分野の課題別研修	課題別研修他	■■■■■							1,8,9,10,12,13,14,15		

重点分野2 (中目標)	基礎的な経済社会基盤の整備												
開発課題2-1 (小目標)  経済・社会基盤の整備	<b>【現状と課題】</b> ギニア暫定政権は、PRIにおいて、電気、水、エネルギーの生産・輸送に係るインフラの建設・修復・改善等、経済成長に資する経済・社会基盤の整備を重点5分野の一つに掲げている。特に道路及び橋梁等の交通インフラは脆弱であり、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）域内の周辺国と比べても整備が遅れている。また、国民の半数以上が電力へのアクセスがなく、都市廃棄物処理システムも脆弱である（WB、2021）。同国の経済成長のためには、経済・社会基盤の整備に対する支援が急務である。					<b>【開発課題への対応方針】</b> 我が国はこれまで首都コナクリにおける送水管更新事業、給水事業に対する個別専門家派遣等を通じて、コナクリ市を中心とした国内の給水環境の改善に貢献してきた。同時に、国道一号線、二号線、三号線の橋梁改修及びコナクリ市地図作成等の基礎インフラ整備を手掛けている。今後も橋梁整備や電力アクセスの向上等、社会生活の安定や投資促進に資する経済基盤インフラ整備を支援する。							
	協カプログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考	
	経済・社会基盤整備プログラム	国道三号線スンバ橋架け替え計画	無償	■							14.14	9	
		国道二号線ファラナ橋架け替え計画準備調査	協準	■								9	
		国道二号線ファラナ橋架け替え計画	無償		■	■	■	■	■	■	27.20	9	
		道路アセットマネジメント技術の中核人材育成	国別研修			■	■	■	■	■		9	
インフラ、給水分野の課題別研修		課題別研修他	■	■							6,9		
開発課題2-2 (小目標)  保健システムの強化	<b>【現状と課題】</b> ギニア暫定政権は、PRI及び「保健システム復興計画」において、エボラ出血熱の感染拡大に際して露呈した脆弱な国家保健システムの強化を重点戦略に掲げている。2020年3月からは新型コロナウイルス感染症流行への対応に迫られ、その他ラッサ熱及びマールブルグ熱等の致死率の高い感染症が突発的に発生しており、強靱な保健システムの構築が課題となっている。					<b>【開発課題への対応方針】</b> 将来起こりうる感染症流行対策の一環として、保健医療施設の整備、保健行政および保健医療施設に従事する人材の育成等を通じて、脆弱な保健システムの強化に向けた支援を実施する。							
	協カプログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考	
	保健システム強化プログラム	国立公衆衛生研究所建設計画	無償	■							24.92	3	
		経済社会開発計画	無償	■	■						3.00	3	医療機材
		栄養・WASH活動を通じたギニアの子どもの栄養状態に関する複数の危機への対応	マルチ	■							1.14百万 USD		国連児童基金 (UNICEF)
		サヘル危機の影響軽減及び民政移管期におけるマリ国境地域住民のレジリエンス強化	マルチ		■	■					0.57百万 USD	2,3,4,5,6,16	国連児童基金 (UNICEF)
		保健分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償	■	■						0.12	3	
保健分野の課題別研修		課題別研修他	■	■							3		

開発課題 2-3 (小目標)  長期的な人的資本開発	【現状と課題】 ギニア暫定政権は、PRIにおいて、増加し続ける若年層の労働市場への参入に対応し、適正な雇用に結び付けるための職業・教育訓練を実施する環境整備を掲げている。		【開発課題への対応方針】 長期的な人的資本開発のための人材育成支援を行う。									
	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
	長期的な人的資本 開発プログラム	食料安全保障のための農学ネットワーク (Agri-Net)	国別研修	2023 年度 以前	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度		2,4	
		アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ (ABEイニシアティブ) 「修士課程及びインターンシップ」プログラム	国別研修								4,8,9	
		SDGsグローバルリーダー	国別研修								4	
		教育分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償							0.52	4,5	
教育分野の課題別研修		課題別研修他								4		
重点分野 3 (中目標)	民主主義の定着 (民政移管終了時まで)											
開発課題 3-1 (小目標)  民政移管支援	【現状と課題】 ギニア暫定政権は、ECOWASとの間で2024年末までの民政移管に合意し、2023年1月から民政移管期間が開始された。24か月の移管期間では憲法秩序の回復を目指し①新憲法制定の国民投票、②地方選挙、③議会選挙、④大統領選挙の実施が規定されている。しかし、それを実施するための予算、知見、技術、制度等が不足しており、国際社会による支援が急務である。		【開発課題への対応方針】 ギニア暫定政権が発表した民政移管プログラムに則り、国際機関等を通じて選挙支援等を行う。									
	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
民政移管支援プログラム	憲法秩序回復のための移行支援計画 (UNDP連携)	無償	2023 年度 以前	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2.70	16		

【凡例】 「協準」(=全ての協力準備調査)、「詳細設計」(=詳細設計)、「基礎情報調査」(=基礎情報収集・確認調査)、「技プロ」(=技術協力プロジェクト)、「開発計画」(=開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」(=個別機材)、「国別研修」(=課題別研修及び青年研修、長期研修)、「JOCV」(=JICA海外協力隊)、「第三国専門家」(=第三国研修)、「現地国内研修」(=科学技術)、「科学技術」(=科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型、SATREPS))、「草の根技協」(=草の根技術協力)、「〇〇省技協」(=外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(=開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「SDGs調査」(=途上国の課題解決型ビジネス(SDGsビジネス)調査)、「無償」(=以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)「食糧援助」(=食糧援助)、「一般文化」(=一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(=草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(=緊急無償資金協力)、「日本NGO」(=日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(=草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(=円借款、海外投融資)、「マルチ」(=国際機関等を通じた多国間協力スキーム)、「基礎調査」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」)、「案件化調査」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」)、「普及・実証・ビジネス化事業」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」)、「ニーズ確認調査」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「ニーズ確認調査」)、「ビジネス化実証事業」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「ビジネス化実証事業」)、「実線「――」」(=実施期間)、「破線「- - -」」(=実施予定期間) ※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。

【SDGsゴールの説明】1「貧困」、2「飢餓」、3「保健」、4「教育」、5「ジェンダー」、6「水・衛生」、7「エネルギー」、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」、10「不平等」、11「持続可能な都市」、12「持続可能な消費と生産」、13「気候変動」14「海洋資源」、15「陸上資源」、16「平和」、17「実施手段」

【SDGsの詳細】 [https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs\\_pamphlet.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf)